

事業計画書

1 事業名称	タマリバタケ
2 協働事業の内容及び実施方法	<p>(1)事業の目的</p> <p>都市部における「日常生活の一部としての農」をコンセプトに共同畑を運営。農という共同作業を通じて農の大切さを知り、地域の多様な住民たちが互いに知り合い、自然や土と触れ合うことで、コミュニティが育まれるようなきっかけづくりを行う。</p> <p>また、地域住民の誰もが参加でき、農を学びながら収穫を祝い、親交を深められる共同の畑や場とし、これらの活動を通じて、地域住民の生活の一部に「農」や「自然との接点」が入ることで、農の必要性（農地や農業）を学び共感することに繋がるよう、農を守るコミュニティづくりを目指す。</p>
	<p>(2)事業の内容</p> <p>*実施体制や実施手法を含めて記入すること。</p> <p>■実施体制 農と屋外スペースの運営。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人 neomura を中心に関係機関との協働により、農を活用したコミュニティ形成に関心のある地域住民を募り運営体制を構築していく。 ・掘り起こしに関しては、前年度同様に NPO 法人 neomura の理事メンバー10 名を中心として、チーム用賀の「農」に関心の高いメンバーや、その家族、都市大や駒沢大の教授とその学生、実施地周辺に住む友人知人などに声をかける。また、農を学ぶにあたって、町会等を通じて農業経験者や農家を招くことを検討する。 ・当プロジェクトの進め方として、ワークショップをメインとしたプロジェクトにより進行する。「タマリバタケのコンセプトを理解した場の活用を一緒に考えませんか」という趣旨で地域住民や地域関係者に広く声をかけ、ワークショップなどの対話型の場づくりにより、想定している事業内容の中だけに限らず、地域にフィットする内容を参加者と一緒に考えていく。 ・そうした「協働型プロジェクト」として運営することで地域のキーパーソンを発掘し、進めながら改善や展開もできる体制（地域住民でテーマごとのチームなどが立ち上がり、参加者が主体性を持って取り組める形）を作る。 <p>また、事後的な結果によるプロジェクト評価だけでなく、プロセスに主体的に関与した住民をどれだけ生み出せるかが、当プロジェクトの重点になると考える。</p> <p>■実施手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信（SNS、HP作成、SNS以外） Facebook のような実名で、かつ既存の人間関係が反映されている SNS をメインに活用。Facebook ページ、グループなどの双方向なコミュニケーションツールを使って、ライフスタイルや職業・年齢など多様な方々が繋がれるような受け皿をつくる。上野毛に住む区議会議員や町会長、影響力のある事業者など、既存の人脈を活かして、地域への通信等の発行・配布やロコミでの情報発信も積極的に行う。また、事業を分かりやすく表現したイラストや絵本の製作し、情報発信する。 ・意識等醸成（イベント開催、周知パンフ等） 「まちに対する参画意識」を意図的に高めるために、全てのイベントは参画型でデザインする予定。DIY や土の耕作、種付けや日常的な水やりなど、地域住民の手で行うように促していく。 また、参加者以外の理解度を向上していくため、月ごとに通信等を発行していく。 ・調査の実施（ヒアリングやアンケート） 地域に向けた農とコミュニティに関するアンケートを実施する。 参加のきっかけ、目的や参加後に得たものなど、できるだけ広く声を集める。 定量的、定性的なアウトカムの評価を目指す。

[令和4年度提案型協働事業 様式]

		<ul style="list-style-type: none"> ・大学教授及び学生との活動 コミュニティ論や非営利組織論の専門である東京都市大や駒沢大学の教授らへ声がけする予定。彼らのゼミと連携して、学生と一緒にイベントの企画や告知を検討する。 ・活動メニュー 畑づくり（畑、プランター） 農作物の共同耕作（比較的育てやすい作物やハーブなどを想定） チェアリング、オープンダイニング（誰もが使えるテーブル・椅子を設置） DIYによる芝生やベンチなどの設置 共同コンポスト 共同収穫、その場で簡易な調理 収穫物やできた土の配布（農の啓蒙活動、農を自宅に持ち込む） オンラインでのコミュニティ形成 農×アート、農×文化など、生活の一部としての農の表現を試みる 			
	(3) 新型コロナウイルス感染拡大防止の影響による事業実施への工夫等	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なコミュニティ形成はSNS等のオンラインを活用する。 ・緊急事態宣言の場合は、大々的な不特定多数が集まるイベント開催を避ける。 ・事業に携わる者は、毎朝検温等健康管理を行い、体調不良の場合は、対面での対応を行わない。 ・打ち合わせ等を行う際は、3密を避け、消毒やマスクを着用するなど、感染予防対策に努め実施する。 ・屋外イベント等を行う際は、社会情勢を踏まえ、担当課と協議して実施の可否を判断していく。また、参加者には検温、消毒、マスク着用を義務付け、連絡先を登録した上で参加を依頼する。 ・感染等が確認された場合は、担当課を通じて速やかに保健所に連絡し、指示に従う行動をとる。 			
	(4) 令和4年度事業完了予定日	2023年2月28日			
3 協働の必要性及び役割分担	(1) 区の担当課	都市整備政策部都市計画課			
	(2) 協働する意義・必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・実証実験に伴い、地域住民の日常生活に農の暮らしによる喜びなどを共感し、必要性や機能について理解を深めていくことで、農家の応援団として、自分の庭や空き地を提供することに繋げるなどの協働の取組みが期待できる。 ・地域住民との連携により、都市におけるQOL向上としての農、そしてモデルケースとなる実績づくりとして、NPOの働きかけの効果と区側の新たな取組みへの一助になるようなきっかけとなる。 ・neomuraでは用賀駅周辺におけるお祭り開催や清掃活動を通じて、地域における多様な人間関係を育んできた。その知識や経験が活かせるであろうと考える。 			
	(3) 役割分担	<table border="1"> <tr> <td>提案団体</td> <td>地域住民への告知・招集（SNS・通信等によるPR活動）、地域住民との活躍の場を作り実働スタッフを募集、農園での耕作支援等（管理含む）、企画運営（関係機関との連携調整、WS・イベント・アンケート実施、スタッフ会議、地域会議）</td> </tr> <tr> <td>区担当課</td> <td>コミュニティ農園運用支援、近隣住民及び町会との調整、広報協力、関係部署との協力要請及び連携体制の構築、PR活動</td> </tr> </table>	提案団体	地域住民への告知・招集（SNS・通信等によるPR活動）、地域住民との活躍の場を作り実働スタッフを募集、農園での耕作支援等（管理含む）、企画運営（関係機関との連携調整、WS・イベント・アンケート実施、スタッフ会議、地域会議）	区担当課
提案団体	地域住民への告知・招集（SNS・通信等によるPR活動）、地域住民との活躍の場を作り実働スタッフを募集、農園での耕作支援等（管理含む）、企画運営（関係機関との連携調整、WS・イベント・アンケート実施、スタッフ会議、地域会議）				
区担当課	コミュニティ農園運用支援、近隣住民及び町会との調整、広報協力、関係部署との協力要請及び連携体制の構築、PR活動				

[令和4年度提案型協働事業 様式]

	(4)地域の団体との連携	共同イベントや企画の実施 社会福祉協議会、大学等との連携、町会や商店街、地元の飲食店との連携
4 協働の成果・効果	(1)期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果及びその測定方法	<p>(団 体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WSによる地域住民自らの検討により地域に根付いた運営 ・農のある生活による、農地保全意識の醸成 ・地域関係資本の創出（地縁者、知人友人の数の増加、世代を超えた多様な人間関係） 豊かな地域関係資本は、貨幣の介在しない経済圏の創出（互助・共助経済）につながり、自然な助け合いや物々交換など、物質的にも精神的にも豊かな生活へとつながる。 ・その他、生活の変化におけるヒアリングやアンケートの実施 関係者や参加者だけでなく地域住民への定量的・定性的なアンケートを実施することで、上記の成果や方向性を可視化し、地域住人と協働したアクティビティのデザインができる。 ・地域の多様な住民たちやその家族、友人が互いに知り合うことによる会話が生まれ、新たな世代間のつながりにより、コミュニティ形成が醸成されていくものとなる ・その結果、将来的な地域のお祭りや地域活動や自治・政治などへの興味関心、引いては活動への参加率の向上を目指す。
		<p>(区担当課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証実験として、区の課題や地域の課題において、「農」の理解を高めた活動により少しずつではあるが、その重要性等含めた自主性のある取り組みができると期待する。 ・SNS等を活用した情報発信により、幅広い年齢層を集めることができ、区だけでは得られない効果がある。
	(2)事業の成果の活用方法、将来の展開	<p>(団 体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングやアンケートで収集した地域住民の声を区と共有し、次年度のコミュニティ農園としての形成に活かすものとする。 ・提案型協働事業によるコミュニティ農園の実績を作り、本事業の趣旨に沿った地域まちづくりに向けた展開が他にも波及するように進めていく。 ・地域における農の重要性の認知拡大に向けて、このような場を①新設する、②公園など既存の公共地の一部を農活動へコンバートし、イギリスのトッドモーデンのようなエディブルシティ（食べられる街）として世田谷の個性と強みを活かした街づくりへと発展させたい。 <p>(区担当課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農の理解と農に携わる人の繋がりにより、農地保全の達成が近づくものと考えていることから、このモデルケースを区内に発信し、区民だけでなく、区内事業者、教育関係、福祉関係の方にも農のある暮らしの良さを実感してもらえようとする。 ・この実証実験による成果が得られることで、区内の農地や農業への理解者が増え、みんなが農家の応援団になることで、地域にある農地が保全・活用され、地域活性化につながっていく取り組みを行っていく。
5 その他	<p>*提案する事業と関連する団体の特徴・専門性や実績、提案や事業実施に向けたアピールなど。</p>	<p>我々neomuraは、用賀サマーフェスティバルという夏祭りを15年以上運営してきた実績があります。また近年は、チーム用賀というオンラインの地域コミュニティを組成し、その参加者は1200名を超えました。用賀BLUE HANDSという清掃プロジェクトを立ち上げ、用賀まちづくりセンターの支援のもと、毎月用賀近辺の清掃活動を行っております。我々の活動には、企業スポンサーも複数ついております。</p> <p>チーム用賀のネットワーク内には、不動産、都市開発、コミュニティデザイン、建築、農業、食、の専門家もおおり、当プロジェクトの実績もあり、継続を望む声を多く頂いております。</p>

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体は、次のページもご記入ください。

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみご記入ください。

<p>6 昨年度の世田谷区提案型協働事業の効果など</p>	<p>(1) 昨年度の協働事業の効果・実績</p> <p>※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみ記入すること</p>	<p><令和3年度1年間のタマリバタケの運営実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・200名を超える参加者 ・160名ほどの「タマリバタケ」オンラインコミュニティ ・母体となっているチーム用賀の1200名を超えるコミュニティメンバー ・タマリバタケのHP作成等SNS情報発信 ・農業の専門家とのヒアリング（協力調整） ・地域住人からの認知理解と参画 ・町会長との協力調整 ・ワークショップによるハタケ部分の耕作と収穫体験、及びタマリノ部分の造作
	<p>(2) 昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など</p> <p>※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみ記入すること</p>	<p>地域関係資本が広がりつつある中で、実施する内容や課題にも変化が生まれています。2年目となる本年は、タマリバタケが地域において更なるパブリックスペースとなるべく、公に開かれた場にしていきたい。</p> <p>なお、継続的な情報発信による地域住民への呼びかけ、前年度にできなかった関係機関との調整により、コンセプトに基づくワークショップやイベントの共同開催により意識醸成の拡大を図る。（町会、社会福祉協議会、大学、小学校との連携）また、地域に向けた農とコミュニティに関するアンケートを実施する。</p> <p>なお、継続作業中であるこれまでの事業を分かりやすく表現したイラストや絵本の製作を情報共有し、SNSを活用できない層に対しても発信を行い、地域関係資本の醸成を通じた福祉の充実を図っていく。</p> <p>本年度の具体的なアイデアは次のとおり検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化的なイベントの実施 ・入り口の鍵の廃止（別の形でのセキュリティ配慮の検討、隣接住民の調整） ・地域における認知の拡大 ・実施地の拡大を踏まえた検討（連携の強化）
	<p>(3) 協働事業を継続する理由</p> <p>※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみ記入すること</p>	<p>昨年度は、世田谷区との協力体制により、たくさんの方々の地域の方々や農を求める方々からのご参画を頂くことができました。</p> <p>毎週、老若男女が30名近く集まるようなコミュニティスペースへと発展してきていると感じており、参加者からは継続を望む声を多く頂いている。また、まちづくりにおける農とコミュニティのあり方として、農地を守ることに繋がる可能性を感じている人が多く（私自身もその一人ですが）、ぜひとも本事業の継続により成果を出したいと思っている。</p> <p>また、可能性があるのであれば、用賀地域での同様な展開や、地域の農コミュニティを望む方がいる別の地域での展開にまで発展できれば、更に農地保全が進むと考えている。</p>

事業実施スケジュール

※適宜、罫線を入れるなどして見やすいように作成してください。

時期	内容
2022年5月	タマリバのイベント企画 二子玉川社会福祉協議会との連携開始 ワークショップ（何を実施するか、から地域住民や関係者で話し合う） 外観・装飾強化、和綿を通じて農を学ぶ
7月	タマリバの強化（誰もがフラッと入れるように鍵の廃止を目指す） コンポストづくり 掲示板、参加者ボードの作成 夏の収穫祭
8月	大学、保育園、小学校などとの連携 土地の土を活用したピザ窯ワークショップ
9月	農の意識醸成のためのイベント開催（リアル or オンラインは要検討） 秋の収穫祭
10月	苗、収穫物、土を近隣へ配布 収穫物の料理イベント（カレー等）
11月	近隣レストラン等との連携
12月	冬野菜の種植え、苗植え 参画者へのアンケートによる定量アウトカム評価レポート作成
2023年1月	冬の収穫祭 餅つき
2月	苗、収穫物、土を近隣へ配布 近隣レストランに持ち込み収穫祭 プロジェクト終了

事業収支予算書

【収入】

費目・内容	金額(円)	積算内訳
補助金	500000円	
合計	500000円	

【支出】

費目・内容	金額(円)		積算内訳	
	事業予算額	うち補助金申請額		
人件費	ワークショップ費	50000	30000	コンポスト等の製作時の専門家費用 2回×2.5万円 外装等の設計委託費用 5万円
	設計費	50000	50000	
	[小計]	100,000	80,000	
報償費				
	[小計]			
消耗品・ 備品費	種・苗	10,000	10,000	テーブル・椅子・パラソル 3万円 レンガ500個×100円、木材5万円 コンポスト 木材5万円 外装看板資材 木材10万円、装飾品5万円 デコレーションボードその他 5万円 食器 お皿、カトラリー30セット 2万円 鍋 購入or レンタル 1万円 スコップ、ネット等 2万円
	テーブル・椅子	30,000	0	
	木材・芝生・ブロック	100,000	100,000	
	コンポスト	50,000	40,000	
	外装	200,000	200,000	
	食器・鍋等	30,000	10,000	
	農機具・プランター	20,000	10,000	
	[小計]	440,000	370,000	
複写・ 印刷費	タマリバタケ通信等	60000	40000	印刷費 1000部×4回(6町会)
	[小計]	60,000	40,000	
郵送・ 広告・ 保険料	イベント保険	10000	10000	WS等 100名@100円
	[小計]	10,000	10,000	
使用料・ 賃借料				
	[小計]			
交通費				
	[小計]			
その他				
	[小計]			
合計	610,000円	500,000円		

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。

☆日常の運営経費(団体等の日常運営の人件費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等)は対象外です。

